

## 住みよいまちづくり・地域経済活性化を 目指して

本宮駅利用促進協議会が設立されました



▲本宮駅利用促進協議会設立総会の様子

5月6日に中央公民館で、『本宮駅利用促進協議会設立総会・第1回定期総会』が開催されました。

設立総会では、協議会設立経過の説明の後、本宮駅利用促進協議会の設立について、全会一致により承認されました。また協議会規約や会計規程についても原案のとおり承認されました。引き続き、第1回定期総会も開催され、設立発起人である佐々木嘉宏株式会社 Mot.Com もとみや代表取締役が会長に選出されたほか、事業計画や予算などが承認されました。

協議会は今後、『広報・啓発部会』、『企画・事業部会』の2部会に分かれ、住みよいまちづくりの形成と地域経済の活性化を目的として事業を展開していきます。

## 市民との懇話会を開催しました

市民と市長の本宮駅利用の促進を考える懇話会



▲市民と市長の懇話会の様子

4月20日と21日の2日間、市役所で『市民と市長の本宮駅利用の促進を考える懇話会』を開催し、10名の皆さんが参加しました。

この懇話会は、住みよいまちづくりの実現を目指すため、本宮駅利用促進に関して市民の方々と市長が、駅周辺の賑わいの創出と地域経済の活性化を図る様々な方策について、意見を交換する目的で行ったものです。

懇話会では、市長のあいさつの後、意見交換が行われ、地元産業の活性化や駅周辺の整備の重要性、市民と行政が一体となった様々な取組みの必要性など具体的な意見が出されました。

市では、駅周辺の賑わいの創出や、地域経済活性化へ向けて、今回いただいた貴重な意見を反映させた事業を展開していきます。



▲企業立地基本協定調印式の様子

### 【立地企業の株式会社青木食品の概要】

- ◆企業名 株式会社青木食品
- ◆代表者 馬見新 博
- ◆資本金 160,000千円
- ◆設立 平成17年7月
- ◆本社所在地  
郡山市富久山町久保田字郷花4番地6
- ◆売上高 18.7億円(平成22年1月)
- ◆事業内容 麺類の製造販売

5月1日に、本宮市役所で本宮市と(株)青木食品(本社:郡山市、馬見新 博代表取締役社長)は、秋山 律スターゼン(株)代表取締役社長と後藤 茂敏福島県商工労働部企業誘致担当理事の立ち会いのもと、企業立地に関する基本協定書に調印し、工業用地分譲契約の締結をしました。

(株)青木食品は、食肉卸業最大手のスターゼン(株)(本社:東京都港区)の連結子会社で、本宮市工業等団地第4工区N区画(荒井字恵向)に新工場

## 本宮市と株式会社青木食品 企業立地に関する基本協定を締結

を開設することになります。

工場の事業内容は食料品製造業(麺類の製造および販売)で、この工場開設にかかる総投資金額(土地を含む)は約21億円。操業は平成23年5月の予定です。

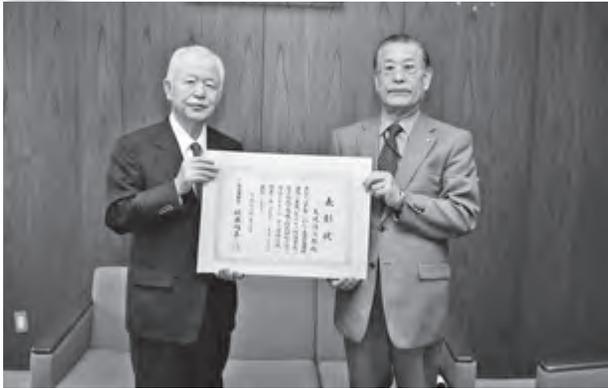
操業当初は、移転者80人と新規雇用20人(地元雇用)で、将来は120名での操業を予定しています。

◆問い合わせ先  
商工労政課企業誘致係

(☎内線150)

## 各種功労者知事表彰を受彰

大浪清次郎さん



▲市長に受彰の報告に訪れた大浪さん(右)

大浪清次郎さん(高木字戸崎)は、交通安全功労者として、各種功労者知事表彰を受彰しました。

大浪さんは、平成2年から約20年間、安全運転管理本宮事業主会長や福島県交通安全協会理事などを歴任し交通安全関係団体の発展に尽力されました。「皆さんの応援があつての受彰で感謝しています。今後も皆さんの力をお借りして頑張ります」と話しました。

## 藍綬褒章を受章

小林庄一郎さん



▲藍綬褒章を受章した小林さん

小林庄一郎さん(本宮字大町)は、長年の統計調査の功績から、藍綬褒章を受章しました。

小林さんは20歳の頃から各種統計調査員を務め、企業での仕事や農作業の傍ら、国勢調査を11回、農業基本調査や農林業センサスなど多くの調査に携わりました。「家族のおかげで長年続けられた。大変荣誉に思います」と話しました。

## 福島県内の市町村として初となるエコアクション21の認証を取得

本宮市は、3月31日に福島県内の市町村として初となるエコアクション21の認証を取得しました。本宮市役所では、地球温暖化対策の一環として、環境省が推進する環境マネジメントシステム エコアクション21の取り組みを行っています。エコアクション21とは、省エネ、省資源などの環境への取り組みを効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持って行動し、結果を取りまとめ、評価・報告するための方法として、環境省が策定したエコアクション21ガイドラインに基づく認証・登録制度です。※活動レポートなどはホームページでご確認ください。

◆問い合わせ先 生活安全課環境保全係 (☎内線 114)



シリーズ

「未来に輝くまちづくり」(23)

本宮市長 佐藤嘉重



本市の市立幼稚園と市立

保育所では、同じ方針のもとで幼児教育や保育ができるよう、以前から『幼保一元化』の取り組みを推進してきました。

平成14年度に『統一カリキュラム』を導入し、幼稚園と保育所の4歳・5歳児

に、同じ内容で幼児教育を行っています。幼児期は、心情・意欲・態度・基本的習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる大切な時期です。子どもたちの健全な育ちを支えていくため、個々の発達段階や個性に応じた保育が重要と考えています。

施設整備の面におきましては、このほど策定した『学校施設等耐震化推進計画』の中で、五百川幼稚園と第

する計画です。

機能的には、幼稚園と保育所を一体化したイメージの施設となります。今年度は、施設の機能面や運営面の検討をさらに進め、平成24年度のオープンを予定しています。

また、サービスマンにおきましては、既存の預かり保育や延長保育、一時保育などを充実させるとともに、待機児童ゼロを目指し、必要な体制を整えていきます。

今後も幼保一元化の推進と併せ、保育サービスの拡充を図りながら、保護者の皆さまの多様なニーズに応えられるよう、就学前教育の充実に努めてまいります。